

## 第2章 学習指導の実態

本章では、学級規模の違いが現実の学習指導にどのような特質なり差違をもたらしているか、その実態に関する小学校及び中学校教員の調査結果を検討することにする。

設問は計6問（授業の特質、一人一人の児童・生徒に応じた指導、個人差への対応の困難さ、個人差に応じた授業の実施、TT（ティーム・ティーチング）による授業の実施、学級における児童・生徒の評価の工夫）であり、その内容は小・中学校教員とも同一である。以下、それぞれの設問ごとに、小学校及び中学校における学習指導の実態について検討することにする。

### 2-1 授業の特質

「授業の特質」について12項目を示し、それぞれに関する実態の度合いを「よくする、時々する、あまりしない、全くしない」の中から一つを選んでもらった。

#### 2-1-1 小学校の場合

##### <全般的傾向>

小学校教員の回答結果を整理して示せば、次の<表2-1-1>の通りである。

表より、全体としてみると、「よくする」授業は（1）の76.4%であり、次は（7）の51.9%となっている。

他方、「あまりしない」と「全くしない」を合わせてみると、全般に低率にある。高いところでは、（10）（48.8%）と（12）（64.6%）が目につく。

表2-1-1 授業の特質

授業の特質	選 択 肢				合 計 度数 / %
	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	
(1) 教科書に沿った授業の展開	4080 76.4	954 17.9	211 4.0	96 1.8	5341 100
(2) 自作資料やプリント問題の活用	1588 29.5	3444 64.0	336 6.3	11 0.2	5379 100
(3) OHPやテレビ等の視聴覚機器の活用	380 7.1	3320 61.7	1571 29.2	107 2.0	5378 100
(4) 説明や伝達による授業	1144 21.6	2567 48.4	1457 27.5	140 2.7	5308 100
(5) 児童が問題を見つけ解決していく授業	1128 21.1	3303 61.7	858 16.1	68 1.3	5357 100
(6) いろいろな体験的な学習を取り入れた授業	1539 28.6	3382 63.0	442 8.2	10 0.2	5373 100
(7) 分からないことなどの質問を促すこと	2774 51.9	2205 41.3	342 6.4	24 0.5	5345 100
(8) 1単位時間を工夫するなど、授業時間の弾力的な運用	1278 23.9	2806 52.4	1149 21.5	124 2.3	5357 100
(9) 学年合同など、学級集団を超えた授業の実施	979 18.4	2761 51.9	1275 23.9	312 5.9	5327 100
(10) 協力的な指導(チーム・ティーチング)の実施	1024 19.2	1714 32.1	1420 26.6	1187 22.2	5345 100
(11) 教室以外のいろいろな場所を使っての授業	802 14.9	3494 65.1	1034 19.3	40 0.7	5370 100
(12) 保護者や地域の人を協力者に招いての授業	156 2.9	1747 32.5	2345 43.7	1123 20.9	5371 100

### <移動平均法\*による分析>

それでは、(1)～(12)それぞれの授業の工夫は学級規模(児童数)の違いにより徐々に、あるいは顕著に変化したりするものであろうか。この点を検討するために、移動平均法による分析を試みた。その結果を示したのが、<図2-1-1～図2-1-2>である。

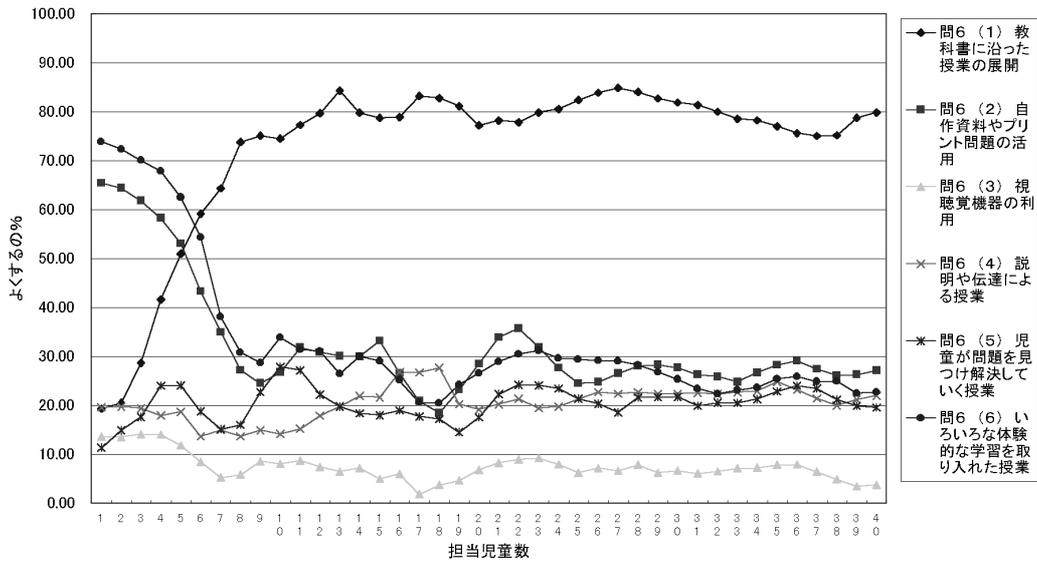
<図2-1-1>には、前半の6項目の授業法ごとに、選択肢の「よくする」に回答された結果(%)が学級の児童数ごとに整理されている。まず、「教科書に沿った授業の展開」をみると、児童数が概ね7人から40人までの学級においてはともに高率の類似した取り組みがみられる(概ね75%～85%の範囲内)。しかし、児童数7人を境に、「よくする」度合いが下降に転じている。

「自作資料やプリント問題の活用」と「いろいろな体験的な学習を取り入れた授業」をみると、児童数が概ね7人から40人までの学級において、ともに類似の取り組みにあるが(概ね20%～35%内)、6人を境にともに上昇に転じている。

他方、「説明や伝達による授業」及び「児童が問題を見つけ解決していく授業」は、児童数が1人から40人までの学級において、ともに類似した取り組みにある(概ね15%～25%)。また、「OHPやテレビ等の視聴覚機器の活用」は、児童数が1人から40人までの学級において、同様に概ね0%～15%以内の類似した取り組みがみられる。

\*移動平均法(moving average method)：経済や気候などの時系列データにおける全体的な傾向や対極的な変動を捉えるために行われる平滑化(smoothing)の方法である。本研究では、担当児童数に基づく系列データX1,X2...X40について前後一ずつのデータを取り、計3個(X1とX40については隣接の1個を取り計2個)のデータの算術平均を求める操作を行った。

図2 - 1 - 1 担当している学級の授業の特質 その1 (移動平均法)

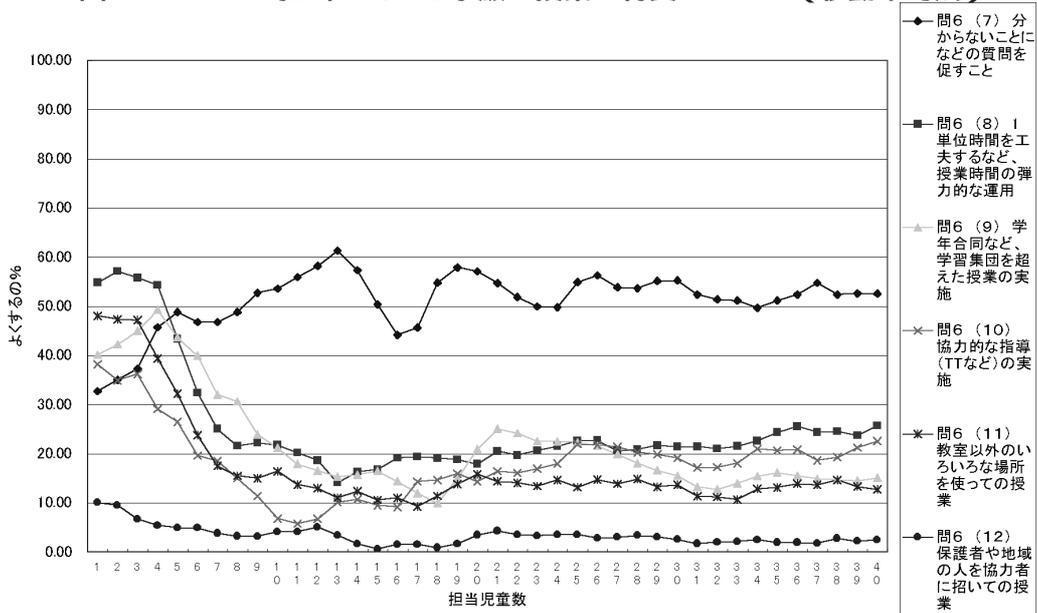


同様に、<図2 - 1 - 2>より、「分からないことなどの質問を促すこと」は、児童数が概ね4人から40人までの学級においてはともに類似した取り組みにあるが(概ね45%~60%)、概ね4人以下になるにつれ下降している。

他方、「1単位時間を工夫するなど、授業時間も弾力的な運用」、「協力的な指導(チーム・ティーチング)の実施」、「学年合同など、学級集団を超えた授業の実施」、「教室以外のいろいろな場所を使っでの授業」は、ともに、児童数が概ね6人~11人以上40人までの学級においては概ね10%~25%内の類似した取り組みにあるが、それ以下では取り組みが上昇している。

また、「保護者や地域の人を協力者に招いての授業」は、児童数1人から40人までの学級においては、概ね0%~10%内で類似した取り組みがみられる。

図2 - 1 - 2 担当している学級の授業の特質 その2 (移動平均法)



## 2-1-2 中学校の場合

## &lt;全般的傾向&gt;

中学校教員の回答結果を整理して示せば、次の<表2-1-2～表2-1-13>の通りである。

表2-1-2 教科書に沿った授業の展開

教科	選択肢 よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	1115 88.8	116 9.2	18 1.4	6 0.5	1255 100
数学	847 70.4	260 21.6	86 7.2	10 0.8	1203 100
社会	825 76.6	192 17.8	55 5.1	5 0.5	1077 100
理科	787 74.3	204 19.3	63 6.0	5 0.5	1059 100
英語	1005 90.1	95 8.5	13 1.2	2 0.2	1115 100
体育	259 36.5	251 35.4	163 23.0	36 5.1	709 100
技術 家庭	201 36.1	222 40.0	115 20.7	19 3.4	557 100
音楽	199 40.1	195 39.3	98 19.8	4 0.8	496 100
美術	30 7.1	147 35.0	202 48.1	41 9.8	420 100

表2-1-3 自作資料やプリント問題の活用

教科	選択肢 よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	480 38.2	703 56.0	70 5.6	3 0.2	1256 100
数学	441 36.7	663 55.2	94 7.8	4 0.3	1202 100
社会	459 42.8	503 46.9	106 9.9	4 0.4	1072 100
理科	363 34.3	576 54.5	114 10.8	4 0.4	1057 100
英語	650 58.5	427 38.4	34 3.1	1 0.1	1112 100
体育	179 24.7	384 53.0	140 19.3	21 2.9	724 100
技術 家庭	237 42.5	267 47.9	50 9.0	4 0.7	558 100
音楽	187 37.6	272 54.6	36 7.2	3 0.6	498 100
美術	216 51.7	175 41.9	23 5.5	4 1.0	418 100

表2-1-4 視聴覚機器の活用

教科	選択肢 よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	41 3.3	411 32.8	590 47.1	211 16.8	1253 100
数学	21 1.8	156 13.0	544 45.5	476 39.8	1197 100
社会	145 13.6	463 43.4	355 33.3	104 9.8	1067 100
理科	163 15.4	590 55.9	276 26.1	27 2.6	1056 100
英語	125 11.3	385 34.7	459 41.3	142 12.8	1111 100
体育	54 7.5	361 50.0	228 31.6	79 11.0	722 100
技術 家庭	75 13.4	252 45.2	178 31.9	53 9.5	558 100
音楽	190 38.1	262 52.5	44 8.8	3 0.6	499 100
美術	22 5.3	190 45.4	154 36.8	53 12.7	419 100

表2-1-5 説明や伝達による授業

教科	選択肢 よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	597 48.2	493 39.8	142 11.5	8 0.7	1240 100
数学	570 47.6	471 39.3	138 11.5	19 1.6	1198 100
社会	679 63.1	295 27.4	97 9.0	6 0.6	1077 100
理科	517 48.9	442 41.8	92 8.7	6 0.6	1057 100
英語	557 50.3	405 36.6	131 11.8	14 1.3	1107 100
体育	261 36.3	315 43.8	134 18.6	10 1.4	720 100
技術 家庭	217 39.1	269 48.5	62 11.2	7 1.3	555 100
音楽	138 28.1	233 47.4	114 23.2	7 1.4	492 100
美術	182 43.7	175 42.0	56 13.4	4 1.0	417 100

表2-1-6 生徒が問題解決していく授業

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	128 10.2	674 53.6	395 31.4	60 4.8	1257 100
数学	105 8.7	644 53.5	409 34.0	45 3.7	1203 100
社会	84 7.8	524 48.6	408 37.9	62 5.8	1078 100
理科	86 8.1	511 48.3	390 36.9	71 6.7	1058 100
英語	56 5.1	440 39.6	509 45.9	105 9.5	1110 100
体育	174 24.1	352 48.7	181 25.0	16 2.2	723 100
技術 家庭	77 13.8	320 57.5	141 25.3	19 3.4	557 100
音楽	46 9.3	236 47.5	192 38.6	23 4.6	497 100
美術	111 27.1	175 42.7	110 26.8	14 3.4	410 100

表2-1-7 体験的な学習を取入れた授業

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	64 5.1	411 32.9	594 47.6	179 14.3	1248 100
数学	44 3.7	412 34.3	615 51.1	132 11.0	1203 100
社会	36 3.4	272 25.4	546 50.9	219 20.4	1073 100
理科	263 24.9	533 50.4	227 21.5	34 3.2	1057 100
英語	93 8.4	477 43.1	428 38.7	108 9.8	1106 100
体育	210 29.2	280 38.9	196 27.3	33 4.6	719 100
技術 家庭	268 47.9	220 39.4	61 10.9	10 1.8	559 100
音楽	122 24.8	203 41.2	150 30.4	18 3.7	493 100
美術	170 40.6	144 34.4	89 21.2	16 3.8	419 100

表2-1-8 分からないことなどの質問を促すこと

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	491 39.3	602 48.2	146 11.7	11 0.9	1250 100
数学	588 48.9	544 45.2	64 5.3	7 0.6	1203 100
社会	322 30.0	549 51.1	191 17.8	12 1.1	1074 100
理科	346 32.7	538 50.9	159 15.0	14 1.3	1057 100
英語	477 43.1	495 44.7	121 10.9	14 1.3	1107 100
体育	157 21.8	385 53.5	164 22.8	14 1.9	720 100
技術 家庭	140 25.4	298 54.0	106 19.2	8 1.5	552 100
音楽	116 23.5	247 50.1	119 24.1	11 2.2	493 100
美術	146 35.6	188 45.9	69 16.8	7 1.7	410 100

表2-1-9 授業時間の弾力力的な運用

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	137 10.9	313 24.9	357 28.5	448 35.7	1255 100
数学	105 8.8	263 22.0	352 29.4	478 39.9	1198 100
社会	101 9.4	269 25.0	341 31.7	364 33.9	1075 100
理科	94 8.9	239 22.7	331 31.4	389 36.9	1053 100
英語	171 15.5	335 30.3	285 25.8	316 28.6	1107 100
体育	100 13.9	260 36.2	219 30.5	139 19.4	718 100
技術 家庭	85 15.3	186 33.6	165 29.8	118 21.3	554 100
音楽	70 14.2	165 33.5	128 26.0	130 26.4	493 100
美術	77 18.8	127 31.1	113 27.6	92 22.5	409 100

表2-1-10 学級集団を超えた授業の展開

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	17 1.4	60 4.8	253 20.3	918 73.6	1248 100
数学	9 0.8	30 2.5	137 11.4	1027 85.4	1203 100
社会	4 0.4	37 3.4	203 18.9	831 77.3	1075 100
理科	8 0.8	29 2.8	179 17.0	840 79.6	1056 100
英語	7 0.6	36 3.3	184 16.6	879 79.5	1106 100
体育	115 16.1	150 21.0	187 26.2	262 36.7	714 100
技術 家庭	7 1.3	24 4.3	102 18.3	424 76.1	557 100
音楽	36 7.2	146 29.4	163 32.8	152 30.6	497 100
美術	11 2.6	33 7.9	105 25.2	267 64.2	416 100

表2-1-11 ティーム・ティーチングの実施

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	32 2.6	84 6.7	173 13.8	964 76.9	1253 100
数学	308 25.6	217 18.0	118 9.8	560 46.6	1203 100
社会	13 1.2	51 4.7	144 13.4	870 80.7	1078 100
理科	31 4.6	63 9.4	110 16.3	470 69.7	674 100
英語	396 35.7	505 45.5	99 8.9	110 9.9	1110 100
体育	117 16.3	181 25.2	165 23.0	254 35.4	717 100
技術 家庭	26 4.7	32 5.8	75 13.5	424 76.1	557 100
音楽	23 4.6	51 10.2	107 21.5	317 63.7	498 100
美術	14 3.4	28 6.8	76 18.3	297 71.6	415 100

表2-1-12 教室以外の場所を使った授業

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	40 3.2	424 33.8	510 40.6	282 22.5	1256 100
数学	18 1.5	137 11.4	391 32.5	656 54.6	1202 100
社会	26 2.4	237 22.1	404 37.6	407 37.9	1074 100
理科	171 16.2	489 46.3	307 29.0	90 8.5	1057 100
英語	26 2.3	191 17.2	403 36.2	493 44.3	1113 100
体育	305 43.5	199 28.4	132 18.8	66 9.4	702 100
技術 家庭	98 17.5	162 28.9	134 23.9	167 29.8	561 100
音楽	28 5.6	148 29.7	204 40.9	119 23.9	499 100
美術	28 6.7	151 35.9	137 32.5	105 24.9	421 100

表2-1-13 保護者や地域の人を招いての授業

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	3 0.2	37 3.0	159 12.7	1057 84.2	1256 100
数学	1 0.1	21 1.7	80 6.6	1103 91.5	1205 100
社会	2 0.2	48 4.5	188 17.4	840 77.9	1078 100
理科	2 0.2	25 2.4	131 12.4	900 85.1	1058 100
英語	1 0.1	30 2.7	145 13.0	939 84.2	1115 100
体育	2 0.3	43 6.0	129 17.9	548 75.9	722 100
技術 家庭	1 0.2	31 5.5	71 12.7	457 81.6	560 100
音楽	1 0.2	42 8.4	91 18.3	364 73.1	498 100
美術	5 1.2	17 4.1	71 17.1	323 77.6	416 100

表より、「よくする」が7割を超えている授業をみると、(1)が多く、それぞれ国語、数学、社会、理科、英語となっている。それ以外の授業では、(2)の英語(58.5%)、美術(51.7%)、(4)の社会(63.1%)、英語(50.3)が目につく。

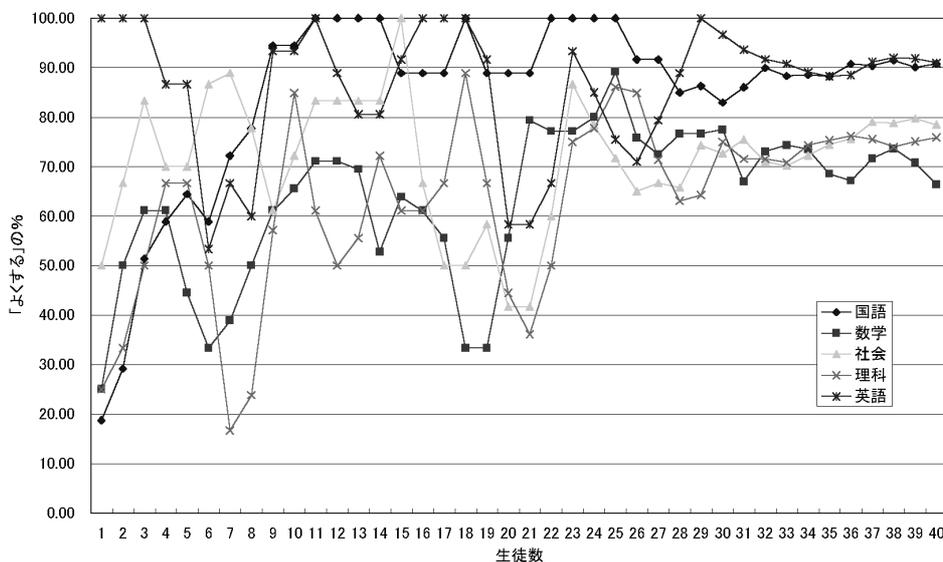
他方、「あまりしない」 - 「全くしない」が6割を超えている授業をみると、(3)の国語、数学、(6)の国語、数学、社会、(8)の国語、数学、社会、理科である。さらに、(9)～(12)においては、ほぼ全教科が該当する。例外となるのは、僅かに(10)における英語(18.8%)(なお、数学56.4%、体育58.4%も非実施割合がやや高い)(11)における理科(37.5%)、体育(28.2%)(なお、技術家庭53.7%、美術57.4%も非実施率がやや高い)にすぎない。

<移動平均法による分析>

次に、(1)～(12)それぞれの授業の工夫に関する移動平均法による分析結果を検討することにする。

その中から、まず授業の特質(1)に関して、「よくする」の回答結果に基づく分析結果を示せば、<図2-1-3～図2-1-4>の通りである。

図2-1-3 教科書に沿った授業の展開 その1 (移動平均法)



<図2-1-3>より、国語においては、概ね生徒数9人以上40人までの学級においてほぼ類同の取り組みにあるが(概ね85%~90%内)、生徒数9人を境に「よくする」が下降に転じている。

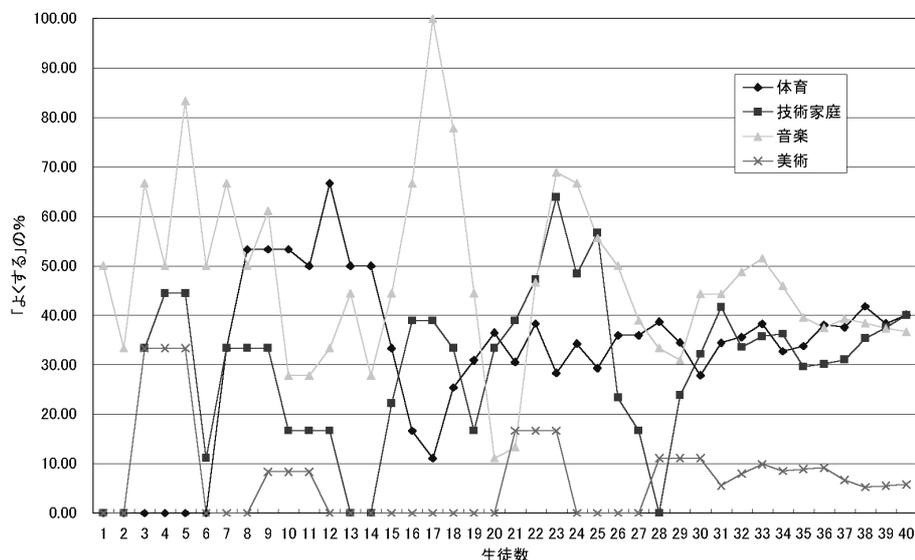
数学・社会・理科・英語においては、生徒数26人前後から40人までの学級においてはほぼ同じように取り組まれているが(それぞれ、65%~75%内、65%~80%、65%~75%内、80%~100%内)それ以下では、「よくする」割合がそれ以上に大幅に上昇したり下降したりするなど極めて起伏の変化が激しくなっている。

<図2-1-4>より、体育においては、概ね生徒数18人以上40人までの学級においてはほぼ同じように(概ね25%~40%内)取り組まれているが、それ以下では、「よくする」割合が、それ以上に大幅に上昇したり下降したりするなど極めて起伏の変化が激しくなっている。

技術家庭においては、概ね生徒数30人から40人までの学級においてはほぼ同じように(概ね30%~40%内)取り組まれているが、それ以下では、「よくする」割合が、それ以上に大幅に上昇したり下降したりするなど極めて起伏の変化が激しくなっている。音楽においても、同様に、概ね生徒数26人以上40人までではほぼ同じように(概ね30%~50%)取り組まれているが、それ以下では、「よくする」割合が、それ以上に大幅に上昇したり下降したりするなど極めて起伏の変化が激しくなっている。

美術においては、生徒数1人から40人まで、比較的に同じように（概ね0%～15%内）取り組まれている。

図2-1-4 教科書に沿った授業の展開 その2（移動平均法）



なお、残る授業の特質（2）～（12）に関しても、同様に、移動平均法による分析を試みたのであるが、紙数の制限もあるところから、その結果のみを紹介すれば、上記で紹介した（1）を「よくなる」国語において“9人を境に下降”という唯一のケースを除き、（2）～（12）のすべてにおいて、どの規模の学級でも「よくなる」傾向は類似、ないしはある特定の生徒数（20人であったり、34人であったり等々）から40人までは類似だが、それ以下は起伏の変化に富むという結果であった。

なお、このように起伏の変化が激しくみられるのは、小学校のように中学校においても小規模になるにつれ回答者数が少なくなるうえ、さらには教科別に集計したのでさらに少なくなったためと考えられる。このため、どの教科にあっても、「よくなる」傾向がある生徒数を境に上昇する、あるいは下降するといった一定の傾向はみられないといえよう。

## 2-2 一人一人の児童・生徒に応じた指導の工夫

「一人一人の児童・生徒に応じた指導の工夫」について6項目を示し、それぞれに関する実態の度合いを「よくなる、時々する、あまりしない、全くしない」の中から一つを選んでもらった。

### 2-2-1 小学校の場合

#### <全般的傾向>

小学校教員の回答結果を整理して示せば、次の<表2-2-1>の通りである。

表2-2-1 一人一人の児童に応じた指導の工夫

授業の特質	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 / %
(1) 机間指導を中心とした指導・助言	4212 78.4	1083 20.2	58 1.1	21 0.4	5374 100
(2) 休み時間や放課後などに特別な指導を行う	1116 20.7	3148 58.5	984 18.3	134 2.5	5382 100
(3) 一人一人が生かされるような発問を工夫する	1423 26.6	3216 60.2	691 12.9	16 0.3	5346 100
(4) グループ編成などによる協同学習・助け合い学習	2169 40.4	2763 51.5	385 7.2	52 1.0	5369 100
(5) 一人一人に合った家庭学習の課題を与える	461 8.6	1670 31.1	2675 49.8	563 10.5	5369 100
(6) 体験的な学習や実験・実習、実技を取り入れる	1357 25.5	3401 63.9	537 10.1	26 0.5	5321 100

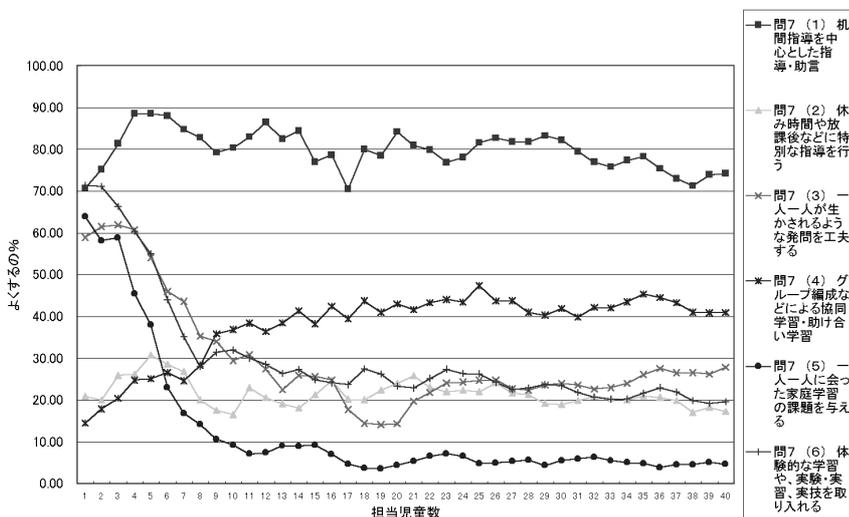
表より、「よくする」工夫は(1)の78.4%である。その他の工夫は少なくなっているが、その中では(4)が40.4%とやや多くなっている。

他方、「あまりしない」と「全くしない」を合わせてみると、(5)が6割の高率にあるが、他の工夫は2割以下の低率にある。

<移動平均法による分析>

次に、「よくする」の回答結果を基に移動平均法による分析結果を示すと、<図2-2-1>の通りである。

図2-2-1 一人一人に応じた指導の工夫(移動平均法)



図より、6つの工夫に関して「よくする」割合には高低がみられるが、それぞれの工夫内はとみると、児童数の多少にかかわらず、いずれも極めて類似の傾向がみられる。

すなわち、(1)と(2)の工夫は、児童数1人から40人までの学級において、それぞれ概ね70%~90%内、15%~25%内の類似の取り組みがみられる。他方、(3)(4)(5)(6)で、児童数7人~9人前後から少なくなるにつれ取り組みが上昇したり下降するものの、それ以上から40人までの学級においては概ね類似の取り組みがみられる。

## 2-2-2 中学校の場合

## &lt;全般的傾向&gt;

中学校教員の回答結果を整理して示せば、以下の<表2-2-2～表2-2-7>の通りである。

表2-2-2 机間指導中心の指導・助言

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	941 74.6	294 23.3	23 1.8	3 0.2	1261 100
数学	1002 83.4	185 15.4	15 1.3	0 0.0	1202 100
社会	567 52.5	434 40.2	73 6.8	6 0.6	1080 100
理科	622 58.5	403 37.9	36 3.4	2 0.2	1063 100
英語	829 74.8	256 23.1	22 2.0	2 0.2	1109 100
体育	227 32.5	261 37.4	146 20.9	64 9.3	698 100
技術 家庭	384 68.9	155 27.8	16 2.9	2 0.4	557 100
音楽	209 42.6	226 46.0	51 10.4	5 1.0	491 100
美術	383 90.5	38 9.0	2 0.5	0 0.0	423 100

表2-2-3 休み時間や放課後などの特別指導

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	57 4.5	570 45.4	500 39.8	128 10.2	1255 100
数学	106 8.8	652 54.3	391 32.6	51 4.3	1200 100
社会	33 3.1	321 29.8	544 50.5	180 16.7	1078 100
理科	35 3.3	377 35.6	510 48.2	136 12.9	1058 100
英語	100 9.0	506 45.7	427 38.5	75 6.8	1108 100
体育	14 2.0	161 22.8	289 40.9	243 34.4	707 100
技術 家庭	52 9.3	229 41.0	214 38.4	63 11.3	558 100
音楽	24 4.9	181 36.8	221 44.9	66 13.4	492 100
美術	62 14.8	210 50.2	126 30.1	20 4.8	418 100

表2-2-4 一人一人を生かす発問の工夫

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	344 27.4	685 54.6	216 17.2	9 0.7	1254 100
数学	260 21.7	685 57.2	243 20.3	10 0.8	1198 100
社会	294 27.4	551 51.3	209 19.4	21 2.0	1075 100
理科	207 19.6	579 54.8	255 24.1	16 1.5	1057 100
英語	287 26.0	613 55.4	196 17.7	10 0.9	1106 100
体育	75 10.7	370 52.6	237 33.7	21 3.0	703 100
技術 家庭	74 13.2	297 53.0	177 31.6	12 2.1	560 100
音楽	45 9.2	251 51.2	182 37.1	12 2.5	490 100
美術	61 14.7	180 43.5	161 38.9	12 2.9	414 100

表2-2-5 協同学習・助け合い学習

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	316 25.1	644 51.2	239 19.0	58 4.6	1257 100
数学	158 13.2	485 40.5	460 38.4	95 7.9	1198 100
社会	162 15.1	475 44.2	349 32.5	88 8.2	1074 100
理科	447 42.2	456 43.0	131 12.4	26 2.5	1060 100
英語	320 28.9	501 45.3	247 22.3	39 3.5	1107 100
体育	465 64.8	208 29.0	35 4.9	10 1.4	718 100
技術 家庭	267 48.0	227 40.8	54 9.7	8 1.4	556 100
音楽	220 44.4	224 45.2	39 7.9	13 2.6	496 100
美術	61 14.7	197 47.5	133 32.1	24 5.8	415 100

表2-2-6 一人一人に合った家庭学習

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	39 3.1	176 14.1	651 52.1	383 30.7	1249 100
数学	35 2.9	224 18.7	653 54.6	285 23.8	1197 100
社会	29 2.7	171 16.0	509 47.5	363 33.9	1072 100
理科	30 2.9	126 12.0	510 48.6	383 36.5	1049 100
英語	57 5.2	233 21.1	583 52.8	232 21.0	1105 100
体育	22 3.1	97 13.8	271 38.6	313 44.5	703 100
技術 家庭	16 2.9	74 13.4	263 47.6	200 36.2	553 100
音楽	11 2.3	42 8.6	197 40.4	238 48.8	488 100
美術	18 4.4	73 17.7	190 46.1	131 31.8	412 100

表2-2-7 体験的な学習や実験・実習、実技

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	47 3.8	315 25.3	569 45.7	315 25.3	1246 100
数学	36 3.1	346 29.3	549 46.5	249 21.1	1180 100
社会	27 2.6	249 23.8	463 44.3	307 29.4	1046 100
理科	552 53.4	371 35.9	91 8.8	20 1.9	1034 100
英語	93 8.6	424 39.0	399 36.7	171 15.7	1087 100
体育	342 49.9	202 29.5	109 15.9	33 4.8	686 100
技術 家庭	405 73.5	127 23.1	17 3.1	2 0.4	551 100
音楽	233 48.6	153 31.9	70 14.6	23 4.8	479 100
美術	242 59.0	120 29.3	40 9.8	8 2.0	410 100

表より、「よくする」が7割を超えている工夫をみると、(1)の国語、数学、英語、美術、(6)の技術家庭となっている。その他では、(1)の技術家庭(68.9%)、(4)の体育(64.8%)も高率にある。

他方、「あまりしない」と「全くしない」を合わせて6割を超えるのは、(2)の社会、理科、体育、(5)では全教科、(6)の国語、数学、社会となっている。

#### <移動平均法による分析>

6つの工夫それぞれについて、「よくする」の回答結果に基づく移動平均法による分析を行った。その中から、「机間指導を中心とした指導・助言」に関する5教科別の結果を紹介すれば、<図2-2-2>の通りである。

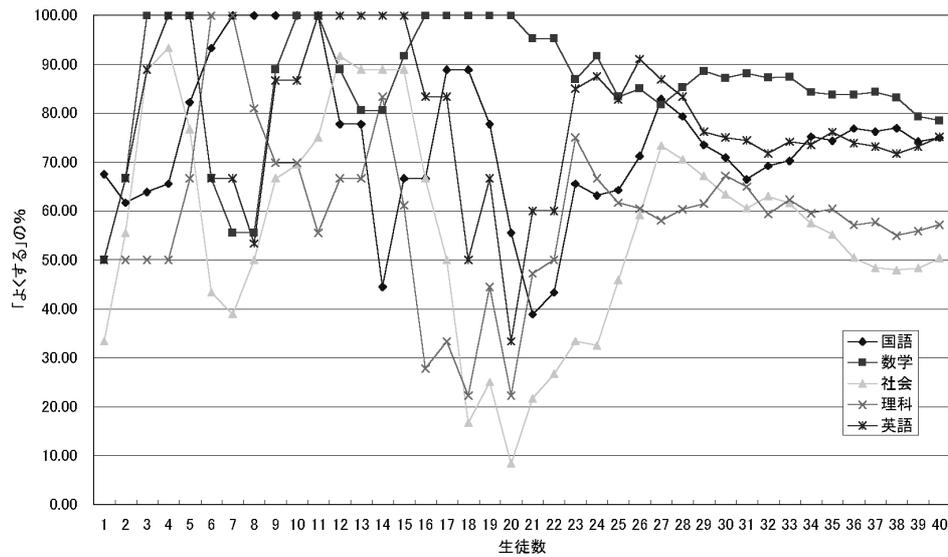
図より、国語・英語では、生徒数29人以上40人までの学級においては類似した取り組みにあるが(それぞれ65%~75%内、75%前後)それ以下では、「よくする」割合がそれ以上に上昇したり下降するを繰り返す極めて起伏の変化が激しくなっている。

数学においては、生徒数3人以上40人までの学級においては、ともに80%~100%の範囲内で同じような取り組みがみられる。

社会においては、生徒数4人、7人、12人、20人、27人を境に「よくする」割合が漸増したり急下降したり急上昇を繰り返すなど極めて起伏の変化が激しくなっている。

理科においては、生徒数24人以上40人までの学級においては概ね55%~65%内の類似した取り組みにあるが、それ以下では、「よくする」割合がそれ以上に上昇したり下降するなど起伏の変化が極めて激しくなっている。

図2-2-2 机間指導を中心とした指導・助言（移動平均法）



なお、残る4教科の移動平均法による分析結果の図は省略するが、ここにおいても、体育では、生徒数20人以上40人までの学級においては概ね20%~40%内での類似した取り組みがみられる。技術家庭・音楽・美術では概ね32人前後から40人までの学級において類似した取り組みがみられるが（それぞれ63%~71%内、38%~50%内、85%~95%内）それ以下になると、いずれとも「よくする」割合が上昇したり下降するを繰り返す起伏の変化が激しくなっている。

また、残された(2)~(6)の工夫に関しても、いずれの教科においても、1人~40人の学級まで類似、あるいは特定の生徒数(20人であったり、34人であったり等々)から40人までは類似だが、それ以下では起伏の変化に富むという結果が認められた。

## 2-3 個人差への対応の困難さの認識

「学級で一斉的な授業を進めていく場合、児童・生徒間に見られる個人差へ対応することの困難さ」をどう判断するか、その認識の度合いを「その通りだと思う、時々そう思う、あまりそうとは感じない、全くそうとは感じない、なんともいえない」の中から一つを選んでもらった。

### 2-3-1 小学校教員の場合

#### <全般的傾向>

小学校教員の回答結果を示せば、次の<表2-3-1>の通りである。

表2-3-1 個人差への対応の困難さ

その通り だと思う	時々そう 思う	あまり感 じない	全く感 じない	なんとも いえない	合 計 度数 / %
3220	1896	190	15	68	5389
59.8	35.2	3.5	0.3	1.3	100

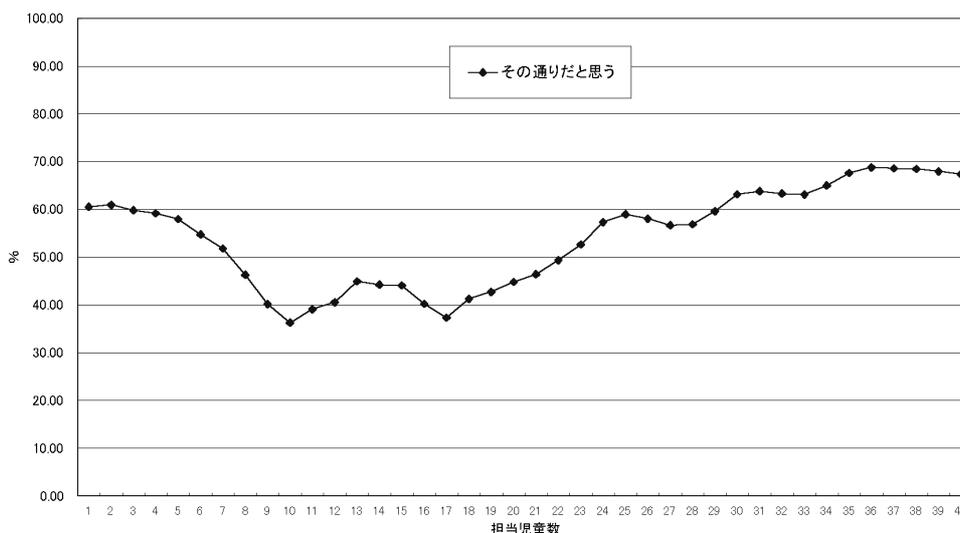
表より、「その通りだと思う」が6割にのぼっている。「時々そう思う」も加えれば、実に95%の教員が一斉的な授業の中で個人差に対応することは困難だと感じていることになる。

#### <移動平均法による分析>

次に、「その通りだと思う」とする回答結果を基に移動平均法による分析を行った。その結果を示せば、次の<図2-3-1>の通りである。

図より、児童数が16人より多くなるにつれ、また、9人より少なくなるにつれ、「その通りだと思う」割合が次第に上昇する傾向がみられる。

図2-3-1 個人差への対応の困難さ（移動平均法）



## 2-3-2 中学校教員の場合

## &lt;全般的傾向&gt;

中学校教員の回答結果を示せば、次の<表2-3-2>の通りである。

表2-3-2 個人差への対応の困難さ

教科	その通り だと思 う	時々そ う思 う	あまり感 じない	全く感 じ ない	なんとも いえ ない	合 計 度数 / %
国 語	840 66.6	371 29.4	37 2.9	3 0.2	10 0.8	1261 100
数 学	881 73.1	284 23.6	32 2.7	2 0.2	7 0.6	1206 100
社 会	669 61.9	344 31.8	54 5.0	4 0.4	10 0.9	1081 100
理 科	654 61.6	341 32.1	40 3.8	8 0.8	19 1.8	1062 100
英 語	842 76.1	233 21.1	18 1.6	2 0.2	12 1.1	1107 100
体 育	337 46.4	309 42.6	56 7.7	5 0.7	19 2.6	726 100
技 術 家 庭	361 64.0	177 31.4	20 3.6	3 0.5	3 0.5	564 100
音 楽	240 48.4	204 41.1	39 7.9	2 0.4	11 2.2	496 100
美 術	251 59.1	143 33.7	20 4.7	3 0.7	8 1.9	425 100

表より、「その通りだと思う」が7割以上の教科は、数学、英語である。しかし、「時々そうだと思う」を加えれば、すべての教科が89%（体育）～97.2%（英語）の極めて高率の範囲内にある。

## &lt;移動平均法による分析&gt;

9つの教科ごとに、「その通りだと思う」とする回答結果を基に移動平均法による分析を行った。その結果図は省略するが、分析結果を紹介すれば、体育以外のすべての教科において、ある生徒数を境に「その通りだと思う」が上昇するという結果がみられた（国語では14人以下及び29人以上から、数学は9人以下及び29人以上から、社会は30人以上から、理科は26人以上から、英語は26人以上から、技術家庭は30人以上から、音楽は36人以上から、美術は23人以上から）。なお、体育では、1人～40人まで「その通りだと思う」と「時々そうだと思う」が複雑に交叉を繰り返しながら推移し、規模の違いによる一定の傾向はみられなかった。

## 2-4 個人差に応じた授業の実施

「個人差に応じた授業法」として5事例を示し、それぞれに関する実施状況の有無を回答してもらった。なお、5つの事例とは、(1)習熟の状況に応じた指導、(2)適性・思考スタイルに応じた課題や方法の選択学習、(3)興味・関心に応じた課題選択学習、(4)興味・関心に応じた課題の学習順序選択学習、(5)興味・関心に応じた課題の自由設定学習である。

### 2-4-1 小学校教員の場合

#### <全般的特質>

小学校教員に関して、5つの事例ごとに実施したことが「ある」状況を整理すれば、次の<表2-4-1>の通りである。

表2-4-1 個人差に応じた授業実施の状況 (N=5443)

	事例1	事例2	事例3	事例4	事例5
度数	3084	1326	2690	762	1410
%	56.7	24.4	49.4	14.0	25.9

表より、いずれの事例ともその実施状況は少ないといえよう。僅かに、事例1及び事例3において5割前後の取り組みがみられるにすぎない。

#### <移動平均法による分析>

5事例ごとに、実施したことが「ある」とする回答結果を基に移動平均法による分析を行った。その結果、分析図は省略するが、各事例とも、児童数1人～40人までの学級を通して、概して類似した実施状況がみられた(すなわち、(1)では50%～75%内の、(2)は20%～40%内の、(3)は40%～55%内の、(4)は10%～15%内の、(5)は20%～30%内の実施状況)。

### 2-4-2 中学校教員の場合

#### <全般的特質>

中学校教員に関して、5つの事例ごとに実施したことが「ある」状況を整理したのが、次の<表2-4-2>である。

表2-4-2 個人差に応じた授業実施の状況

(上欄は実施度数、下欄は%)

	事例1	事例2	事例3	事例4	事例5
国語 (N=1268)	490 38.6	305 24.1	533 42.0	178 14.0	221 17.4
数学 (N=1212)	749 61.8	276 22.8	273 22.5	144 11.9	74 6.1
社会 (N=1085)	271 25.0	229 21.1	421 38.8	104 9.6	242 22.3
理科 (N=1065)	380 35.7	221 20.8	295 27.7	99 9.3	122 11.5
英語 (N=1118)	580 51.9	198 17.7	305 27.3	111 9.9	123 11.0
体育 (N=736)	341 46.3	192 26.1	368 50.0	82 11.1	154 20.9
技・家 (N=568)	190 33.5	137 24.1	219 38.6	57 10.0	132 23.2
音楽 (N=504)	233 46.2	118 23.4	209 41.5	72 14.3	67 13.3
美術 (N=427)	163 38.2	147 34.3	159 37.2	46 10.8	72 16.9

表より、どの教科とも全般的に個人差に応じた授業の実施は低調である。その中でも、事例1における数学(61.8%)、英語(51.9%)、体育(46.3%)、音楽(46.2%)、事例3における国語(42%)、体育(50%)、音楽(41.5%)が、やや多く実施されている。

#### <移動平均法による分析>

5事例ごとに、実施したことが「ある」とする回答結果を基に移動平均法による分析を行った。その分析結果図は省略するが、いずれの事例とも、それぞれの教科内では、どの規模の学級でも類似、ないしは特定の生徒数(概して30人以上)から40人までは類似だが、それ以下は起伏の変化に富むという状況であった。

## 2-5 TT(ティーム・ティーチング)による授業の実施

ここでは、まず、「TT(ティーム・ティーチング)による授業の実施の有無」を問い、続いて「実施有り」の場合には、さらに 教師チームの構成、 教師チームの人数、 学習集団の編成、指導の様子、 教師チームの役割分担について回答してもらった。

### 2-5-1 小学校教員の場合

#### <全般的特質>

TTを実施したことが「ある」は、やや低調であった。すなわち、全回答者5379名中2354名(43.8%)にすぎなかった。

また、実施したことが「ある」場合、「TT加配教師」とのTT(51.4%)が圧倒的に多かった。ちなみに、次は「養護教諭」(9%)にすぎなかった。また、教師チームの人数は「2人」(84.1%) 次は「3人」(19.7%) 学習集団は「同一学級内で実施」(67.3%) 次は「同一学年

の全学級を合同して実施」(36.1%)、指導は「一斉的な指導」(64%)、次は「児童の習熟の程度等に応じた指導」(48.8%)と「児童の興味・関心等に応じた指導」(43.9%)、役割分担状況は「主-補助としての役割分担」(73.4%)、次は「必要に応じて協力し合う」(36.1%)と「児童の習熟の程度等に応じて役割分担する」(32.3%)、という回答結果であった。

#### <移動平均法による分析>

TTへの取り組みが「ある」とする回答結果を基に、移動平均法による分析を行った結果、その分析図は省略するが、児童数1人～40人までの学級を通じて、概して類似した実施状況(40%～60%内)が認められた。

### 2-5-2 中学校教員の場合

#### <全般的特質>

実施したことが「ある」は英語(84%)、次は数学(43%)、体育(34%)であり、その他の教科はいずれも16%以下と低率であった。

また、実施したことが「ある」場合、数学と英語では「TT加配教師」(59.6%、30.2%)と「同じ教科の教師」(51.8%、33%)とのTTが、他の教科ではすべて「同じ教科の教師」とのTT(国60.8%、社50.7%、理62.2%、体79%、技家47.6%、音53.2%、美55.9%)が最も多かった。また、教師チームの人数は全教科とも「2人」によるTT(81.8%～97.6%の範囲内)、学習集団は、体育で「同一学年を複数学級ずつ合同して実施」(54.7%)が最も多いが、他の全ての教科では「同一学級内で実施」(75.8%～95.2%の範囲内)、指導は国語と技術家庭では「一斉的な指導」(55%、47.6%)と「習熟の程度等に応じた指導」(51.7%、42.9%)、数(75.9%)・理(57.9%)・英(71.9%)・音(62.9%)では「一斉的な指導」、社会では「一斉的な指導」(53.3%)と「興味・関心等に応じた指導」(53.3%)、体育では「一斉的な指導」(45.3%)と「習熟の程度等に応じた指導」(50.2%)と「興味・関心等に応じた指導」(49.4%)が、美術では「習熟の程度等に応じた指導」(58.8%)、役割分担状況は全ての教科で「主-補助としての役割分担」(56.5%～85.8%の範囲内%)が、それぞれ多かった。

#### <移動平均法による分析>

TTへの取り組みが「ある」とする回答結果を基に移動平均法による分析を行った結果、その分析図は省略するが、TTを実施する状況は、全ての教科において、いずれもある特定の生徒数(概して31ないし32人以上)から40人までは類似だが、それ以下は上昇や下降を繰り返す起伏の変化に富むという結果であった。

## 2-6 学習評価の工夫

「学習評価の工夫」として7項目を例示し、それぞれについて「よくする、時々する、あまりしない、全くしない」の中から一つを選んでもらった。

### 2-6-1 小学校教員の場合

#### <全般的特質>

小学校教員の回答結果を整理して示せば、次の<表2-6-1>の通りである。

表2-6-1 学習評価の工夫

授業の特質	選 択 肢				合 計 度数 / %
	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	
(1) 宿題や予習、復習を出す	3968 75.0	904 17.1	323 6.1	93 1.8	5288 100
(2) 学習や生活の様子を観察し記録する	1887 35.4	2838 53.3	570 10.7	29 0.5	5324 100
(3) 提出された宿題やノート、作品を見て早く返す	3870 72.6	1301 24.4	143 2.7	19 0.4	5333 100
(4) 授業中にアンケートや学習カードを実施する	670 12.7	2784 52.9	1478 28.1	333 6.3	5265 100
(5) 単元終了後にテストを行う	4535 85.1	524 9.8	135 2.5	136 2.6	5330 100
(6) 学期末にテストを実施する	3674 70.0	879 16.8	428 8.2	267 5.1	5248 100
(7) 学習の様子について親・保護者に伝える	1251 24.0	3124 60.0	810 15.6	25 0.5	5210 100

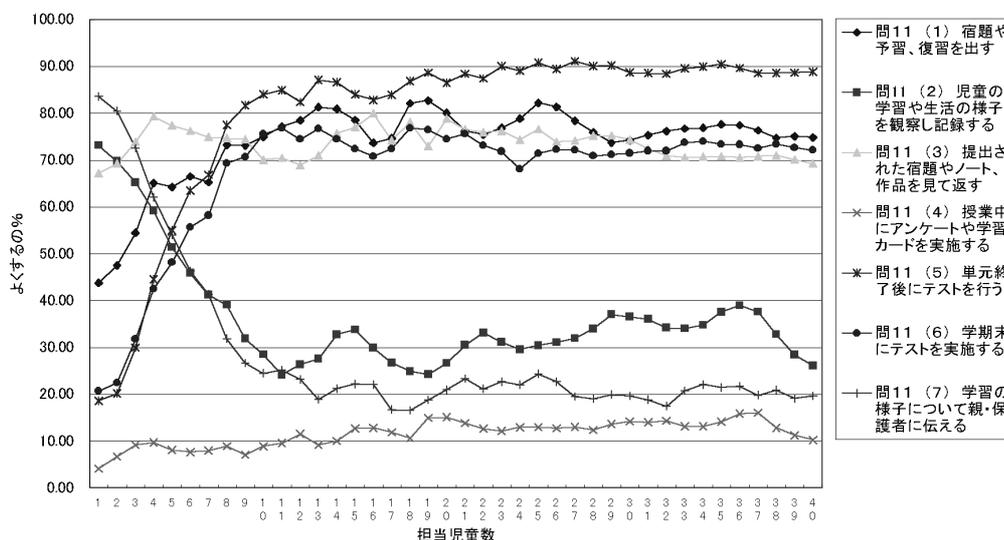
表より、「よくする」が7割を超えているのは、(1)(3)(5)(6)である。

「あまりしない」と「全くしない」を合わせてみても、(4)が34.4%とやや多いものの、他はいずれも16%以内の低率になっている。

<移動平均法による分析>

次に、学習評価の工夫を「よくする」とする回答結果を基に移動平均法による分析を行った。その結果を示すと、<図2-6-1>の通りである。

図2-6-1 学習評価の工夫 (図移動平均法)



図より、(1)(5)(6)の工夫は、ともに、概ね8人ないし9人を境に40人までの学級においてほぼ類似した実施状況がみられるが(それぞれ、75%~85%内、80%~90%内、70%~75%内)それ以下になると下降(実施しない)に転じている。反対に、(2)(7)の工夫は、8人ないし9人以上40人までの学級において、ともに、類似の取り組みがみられるが(それぞれ、25%~40%内、15~25%内)それ以下になると上昇(実施する)に転じている。

他方、(3)と(4)では、1人から40人までの学級において、それぞれ70%~80%内、5%~15%内で、ともに類似の実施状況がみられる。

## 2-6-2 中学校教員の場合

### <全般的特質>

中学校教員の回答結果を整理して示せば、以下の<表2-6-2~2-6-8>の通りである。

表2-6-2 宿題や予習、復習を出す

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	366 30.1	516 42.4	275 22.6	61 5.0	1218 100
数学	447 38.0	488 41.4	215 18.3	28 2.4	1178 100
社会	245 23.2	423 40.1	323 30.7	63 6.0	1054 100
理科	141 13.8	405 39.6	370 36.1	108 10.6	1024 100
英語	682 62.5	306 28.0	92 8.4	12 1.1	1092 100
体育	6 0.9	66 9.7	242 35.5	368 54.0	682 100
技術 家庭	20 3.8	110 21.0	236 45.1	157 30.0	523 100
音楽	7 1.5	68 14.5	186 39.6	209 44.5	470 100
美術	18 4.7	91 23.6	174 45.1	103 26.7	386 100

表2-6-3 学習や生活の様子を観察・記録

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	292 24.3	521 43.4	302 25.2	85 7.1	1200 100
数学	203 17.3	504 42.9	385 32.8	83 7.1	1175 100
社会	216 20.7	440 42.1	313 30.0	76 7.3	1045 100
理科	214 20.8	455 44.3	286 27.8	73 7.1	1028 100
英語	215 20.1	460 43.0	314 29.4	80 7.5	1069 100
体育	273 39.2	285 40.9	104 14.9	35 5.0	697 100
技術 家庭	184 33.8	244 44.9	97 17.8	19 3.5	544 100
音楽	178 37.2	205 42.8	72 15.0	24 5.0	479 100
美術	131 32.8	181 45.4	65 16.3	22 5.5	399 100

表2-6-4 宿題やノート、作品を早く返す

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	771 62.4	415 33.6	44 3.6	6 0.5	1236 100
数学	589 49.7	512 43.2	79 6.7	5 0.4	1185 100
社会	541 50.8	430 40.4	80 7.5	14 1.3	1065 100
理科	504 48.4	467 44.9	62 6.0	8 0.8	1041 100
英語	706 64.4	347 31.6	42 3.8	2 0.2	1097 100
体育	148 21.5	272 39.5	152 22.1	116 16.9	688 100
技術 家庭	273 49.8	233 42.5	36 6.6	6 1.1	548 100
音楽	158 32.7	247 51.1	55 11.4	23 4.8	483 100
美術	172 42.9	162 40.4	56 14.0	11 2.7	401 100

表2-6-5 授業中アンケート等を実施する

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	114 9.4	383 31.6	491 40.6	223 18.4	1211 100
数学	96 8.2	235 20.1	500 42.7	341 29.1	1172 100
社会	89 8.5	278 26.6	427 40.9	251 24.0	1045 100
理科	82 8.0	285 27.8	441 40.1	246 24.0	1024 100
英語	99 9.2	311 29.0	445 41.6	216 20.2	1071 100
体育	272 38.9	269 38.5	110 15.7	48 6.9	699 100
技術 家庭	94 17.5	215 40.1	174 32.5	53 9.9	536 100
音楽	124 25.5	191 39.3	127 26.1	44 9.1	486 100
美術	79 20.0	158 39.9	116 29.3	43 10.9	396 100

表2-6-6 単元終了後にテストを行う

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	199 16.5	442 36.7	392 32.5	172 14.3	1205 100
数学	310 26.4	461 39.2	311 26.5	93 7.9	1175 100
社会	193 18.5	324 31.0	330 31.6	199 19.0	1046 100
理科	190 18.3	363 35.0	326 31.4	158 15.2	1037 100
英語	355 32.8	389 36.0	277 25.6	61 5.6	1082 100
体育	321 46	140 20.1	135 19.3	102 14.6	698 100
技術 家庭	29 5.5	88 16.6	211 39.8	202 38.1	530 100
音楽	69 14.5	139 29.1	168 35.2	101 21.2	477 100
美術	8 2.1	20 5.2	84 21.8	273 70.9	385 100

表2-6-7 学期の中間及び期末テストを行う

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	1184 95.7	31 2.5	7 0.6	15 1.2	1237 100
数学	1141 96.0	43 3.6	2 0.2	3 0.3	1189 100
社会	1038 97.6	19 1.8	3 0.3	4 0.4	1064 100
理科	1012 96.4	30 2.9	4 0.4	4 0.4	1050 100
英語	1066 97.3	25 2.3	1 0.1	4 0.4	1096 100
体育	489 69.9	126 18.0	42 6.0	43 6.1	700 100
技術 家庭	441 80.9	71 13.0	13 2.4	20 3.7	545 100
音楽	340 70.1	92 19.0	24 5.0	29 6.0	485 100
美術	214 54.7	63 16.1	20 5.1	94 24.0	391 100

表2-6-8 学習の様子を親・保護者に伝える

選択肢 教科	よくする	時々する	あまりしない	全くしない	合計 度数 %
国語	65 5.4	341 28.3	516 42.9	282 23.4	1204 100
数学	72 6.2	291 25.0	523 44.9	280 24.0	1166 100
社会	62 6.0	234 22.6	471 45.5	269 26.0	1036 100
理科	40 3.9	228 22.4	464 45.6	286 28.1	1018 100
英語	71 6.7	293 27.5	467 43.9	234 22.0	1065 100
体育	38 5.6	142 21.0	306 45.2	191 28.2	677 100
技術家庭	19 3.6	83 15.7	245 46.2	183 34.5	530 100
音楽	17 3.6	108 22.9	212 44.9	135 28.6	472 100
美術	13 3.4	73 18.8	178 45.9	124 32.0	388 100

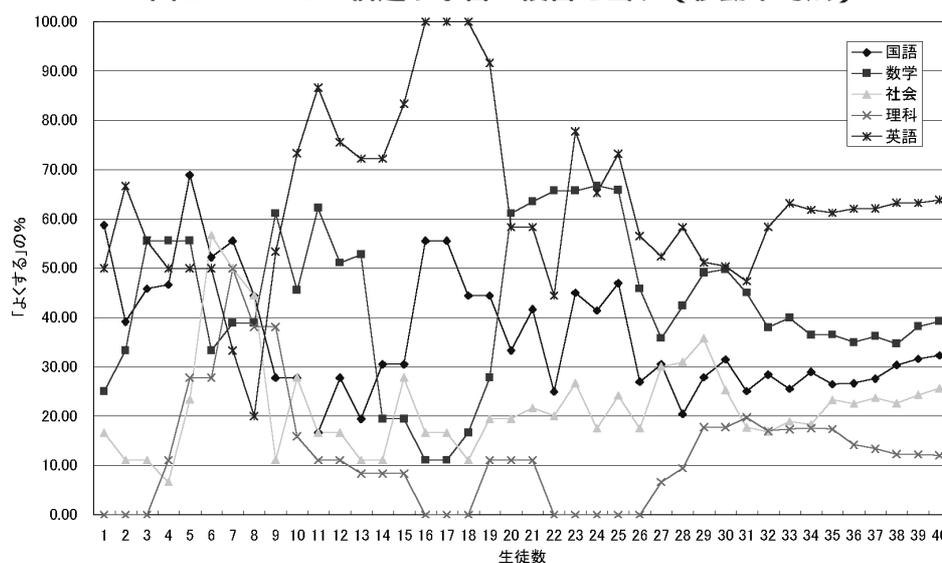
表より、「よくする」が7割を超えている工夫をみると、(6)において、美術を除くすべての教科となっている。その他では、(1)の英語(62.5%)、(3)の国語(62.4%)がやや高率にある。

他方、「あまりしない」と「全くしない」が合わせて6割を超えるのは、(1)の体育、技術家庭、音楽、美術、(4)の数学、社会、理科、英語、(5)の技術家庭、美術、(7)における全教科となっている。なお、その他では(4)の国語(59%)、(5)の社会(50.6%)、音楽(56.4%)がやや高率にある。

#### <移動平均法による分析>

7つの工夫それぞれごとに、「よくする」の回答結果に基づく移動法による分析を行った。その中から、(1)の工夫に関する5教科別の結果を紹介すれば、<図2-6-2>の通りである。

図2-6-2 宿題や予習・復習を出す（移動平均法）



図より、国語では26人以上40人まで（20%～33%の範囲）、数学では32人以上40人まで（35%～40%の範囲）、社会では30人以上40人まで（17%～25%の範囲）、理科では29人以上40人まで（12%～20%の範囲）、英語では33人以上40人まで（13%前後）の規模において、いずれも類似の取り組みがみられる。しかし、各教科とも、それ以下の規模では「よくする」割合が上昇や下降を繰り返す起伏の変化が激しくなっている。

なお、(1)の残る4教科、さらには(2)～(7)の工夫に関する移動分析の結果図は省略するが、いずれの工夫 - いずれの教科においても、学習評価の工夫の状況はどの規模の学級でも類似、ないしはある特定の生徒数（23人であったり、33人であったり等々）から40人までは類似だが、それ以下は起伏の変化に富むという結果であった。

## 2-7 考察

以上、小学校及び中学校教員の学習指導の実態に関する調査結果を検討してきたわけであるが、それらを総括するとき、まず、「授業の特質」（12事例）、「一人一人の児童・生徒に応じた指導の工夫」（6事例）、「児童・生徒の学習評価の工夫」（7事例）それぞれに関して、小学校教員は、いずれの規模の学級を担任していようが、いずれの工夫に関しても概ね類似した指導の実態にある。他方、中学校教員の場合では、教科別/規模別によりかなり多様な指導の実態がみられるが、しかし、それぞれの教科内ではとなると、いずれの教科/規模においても極めて類似の指導の実態がみられる。

また、一斉的な授業の中での「児童・生徒の個人差への対応の困難さ」では、小学校教員及び中学校教員ともに、その通り困難だと思っている（しかも、小学校教員の場合は児童数21人以上から、中学校の各教科教員の場合は生徒数14人～36人以上から困難の意識度が上昇する）。しかし、いざ「個人差に応じた授業」（5事例）に実際に取り組んでいるかとなると、小学校教員及び中学校の各教科教員いずれとも取り組みが少ない。

さらに、「TT（ティーム・ティーチング）による授業の実施」となると、小学校教員では56%を除き、中学校教員では一部の教科を除き（英語の84%、数学の43%）低調な状況にあ

る。また、その取り組みの状況に関しても、小・中の各教科教員ともに、ほとんどが「TT加配教師（小）・同じ教科教師（中）」と「2人」で「同一学級内」で「一斉的な指導」を「主・副分担」して行うといった極めて一様な実態にある。

このようなため、今回の調査からは、このような学習指導を展開するとなるとどのくらいの学級規模（＝学習集団）が上限となる、あるいはこれ以上の規模になるとこのような学習指導は困難になる等といった一定の顕著な結果は見出せない。今後、学習指導と学級規模（＝学習集団）の適正化に関する一層の実験的な取り組みや研究が必要であると思われる。